

JUNGIDO

滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

発行人／浅田幸作
 発行所／滋賀県立膳所高等学校同窓会
 大津市膳所2-11-1
 TEL077-524-4295・FAX077-524-1732
 発行日／平成20年4月20日
 編集人／広報部会・山田 勲
 印刷／有限会社服部印刷所

URL: <http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou>
 E-mail: zeze-h-dousoukai@poem.ocn.ne.jp

 VOL. 25

『遵義の桜、さらなる開花』

1898 =  = 2008

CONTENTS

巻頭エッセー	1
平成20年度総会のお知らせ	1
新校舎・グラウンド竣工式	2
サイエンス・グローバル・プロジェクト	3
ポートを通して全国へ、世界へ	3
同窓会事業のご案内	3
周年記念同窓会報告	4・5・6
周年記念同窓会予告	6
会費納入のお願い	6
会計報告・総会提出議案	7
石庫文庫	7
膳所高NEWS	8

巻頭エッセー

認知症を生きる

昭和32年卒業（膳所高5回）

精神科医 小澤 勲



私は精神科医としてさまざまな方々と出会ってきたが、そのなかで最も長くお付き合いしてきたのは認知症の方々だから、認知症のことを書く。あるご夫婦二人で暮らしておられたが、ともに認知症が発症し、小火を出し、脱水中に陥ったりして、在宅生活の限界がはつきりしていたので、私が勤務していた老人保健施設に入所していただいた。

お預かりしてみると、ご主人の認知症は比較的浅かったが、奥さんの認知症はかなり進んでいて言葉もほとんどなく、常時の失禁があり、床ずれもできていた。これでよく在宅生活ができていたなあ、と感じるほどだった。さまざまに試みてはみたのだが、結局うまくいかず、仕方なしにおむつをあてさせていただいた。おむつ替えのときに奥様は大声を出される。するとご主人が「家内に何をやる！」と怒鳴り込んでこられる。その都度説明して納得していただくしかなかった。彼は奥様と知りあって以来、彼女に惚れ抜いておられたようで、いつも何かと世話を焼かれていた。ところが、彼女は迷惑げな顔を、「だれだ、このおっさんは？」というような雰囲気だった。ある時、彼に「先生、わしがつきすぎたから家内はお漏らしするよ

新入会員

「新たな一歩」

平成20年3月卒業

野口 雅貴



思い起こせば三年前の春、期待と不安を胸に抱いて膳所高校の門をくぐった。入学当初は、国語や数学、英語など教科の勉強のことがばかりに気をとられていたが、三年経った今、学業以外の活動を通して学び取ることも大いにあったと思う。その一つが、生徒による自主活動、湖風祭である。湖風祭では十一のブロックに分かれて、各ブロック様々な活動を行う。そこで私が感じたのは一つの組織・集団としてまとまるということの難しさであった。個人を尊重しすぎるとみんなが好き勝手なことを主張し、集団としてまとまらなくなる。逆に、個人の意

うになったのじゃろうか」と訊ねられた。最初は何のことか分からなかったのだが、自分がセックスしすぎたから失禁するようになったのかと心配しておられたようだ。私は「いや、そんなことはないでしょう」と言ったのだが、彼はそう信じておられたようだ。彼はその後、何度か脳出血を生じ肺炎も併発して、ある日、亡くなられた。そのことを彼女に告げようとしたのだが、スタッフの多くはあまり賛成してくれなかった。言葉を失い、夫の識別さえできなくなってしまった。なかつたのだから言うだけ無駄というのが大半の意見だった。

正直、私も迷ったが、それでも思い直して、夫が亡くなった病院に連れて行き、夫の枕元で、彼女にこう告げた。「ご主人、ずっとがんばってこられたのだけれど、先程だめになられました」「亡くなった」とも「死を迎えられた」とも言わなかったのだ。しばらく夫の死に顔を眺めておられた彼女は、徐々に眉間の皺が深まり、顔がひきつって、「えーっ」と絞り出すように叫ばれた。傍にいた私たちは、一瞬立ちつくした。私たちが知らない深いところでふたりは繋がっておられたのだろうと感じた。

このような出来事に出会うことが稀ならずあり、その都度、私の方が認知症の人に救われてきたのである。見を無視して、誰か一人が集団を動かそうとすれば必ず反発が生じる。個人尊重と集団のまとまりの維持という、相反するような二つのものが同時に求められていた。しかし、十一あるどのブロックもこの困難を乗り越え、個人として、集団として大いに成長した。三年生は湖風祭後、大学受験に気持ちを切り替え、切磋琢磨し、それぞれの目標に向かって進んでいくことができた。三年間の学校生活では、部活動、校外学習、修学旅行、新校舎完成、未履修問題など楽しいことから、つらいことまで様々な出来事があった。その一つ一つの膳所高校での出来事が私達を大きく成長させてくれたと思う。

そんな膳所高校、そして共に学んだ仲間達と別れるのは寂しい。しかし、会えないからこそ何年か後の同窓会で、さらに一回りも二回りも成長したみんなと会うことが楽しみとなる。膳所高校の校訓である『遵義・力行』の精神を忘れず、日々自分を磨き、成長した仲間との再会を迎えたい。

本年の総会は5月17日(土)
 平成20年度 総会のお知らせ

平成20年度 定例総会

滋賀県立膳所高等学校同窓会 平成20年度定例総会を左記の要項により開催いたします。
 平成19年10月20日に、校舎改築に始まった一連の工事が終了し、竣工式典が挙行されました。(2頁参照) 同窓会から体育館舞台幕、生徒サロンの机、椅子、書架が寄贈され、江戸彼岸桜の植樹他造園工事が完了しました。
 本年度の総会に皆様方の多数のご出席をお願い申し上げます。

日時 平成20年5月17日(土) 午前10時開会
 (午前9時30分 受付開始)

場所 大津プリンスホテル 淡海
 電話 077-522-1111

議事 一、平成19年度会務報告・部会報告
 一、平成19年度会計報告・会計監査報告
 一、平成20年度事業計画・予算案
 一、その他

講演 「記者が見る経済今昔」
 講師 八田邦夫氏
 (膳所高14回 昭和41年卒)
 経済ジャーナリスト
 パテントネット(大阪市)顧問
 元気あおもり応援隊プロデューサー

懇親会
 (懇親会にご出席の方は、当日受付にて) 会費6千円をいただきます。

出席のお返事は同封のハガキでお願いします。欠席の方及び異動のない方はご返信不要です。

講師プロフィール
 昭和41年膳所高等学校卒業/昭和45年同志社大学文学部卒業/同年日刊工業新聞入社。記者として金融、行政、自動車、機械産業などを担当。福井支局長、デスク、産業部長、経済部長を経て平成14年編集局長。18年論説副委員長。19年9月退社。「ナノテクの衝撃」他を編著。

講演の主旨
 ナノテクノロジーに代表されるように、超微細な科学技術の優劣が産業経済を左右する時代になりました。そのナノテクは、関西から全国へと広がりました。関西からははかにも経済の根幹をなす技術やビジネスが数多く発祥しています。
 その関西経済の変遷と躍動を、記者としての経験をもとに紹介します。また経済人の動静を、米マイケル・ポーターの「競争理論」などと関連づけながら言及します。



八田邦夫氏
 (膳所高14回 昭和41年卒)
 経済ジャーナリスト
 パテントネット(大阪市)顧問
 元気あおもり応援隊プロデューサー

懇親会
 (懇親会にご出席の方は、当日受付にて) 会費6千円をいただきます。

新校舎・グラウンド竣工式 盛大に挙

平成19年10月20日、新校舎およびグラウンドの竣工式が、県教育委員会、地元自治会、同窓会、施工業者等、多数の来賓を招いて挙行されました。



式辞で河原校長が「人は環境によって育てられ、人が環境を作っていく」と新校舎で学ぶ生徒の成長を期待し、野口生徒会長は「すばらしい校舎で学ぶ感動、旧校舎で育まれた伝統を伝えていきたい」と述べました。

その後、同窓会からの記念品贈呈、工事に協力いただいた方々への感謝状贈呈と、式典はとどこおりなく進みました。



式典に続き、京都市立堀川高校校長の荒瀬克己氏を講師に招いて「志を高く」と題した記念講演が行われました。荒瀬氏は、目標を持って青春

時代を生きることが大切であり、また「学ぶ」ということが簡単に答えを求めることではなく、簡単に見つからない答に向かい合う姿勢であると説かれました。そして、自分がやりたいことをあきらめず、自分のやり方を知ることが目標達成につながることを述べ、韓愈の「世有伯乐然後千里馬」という一節を引用して、一人一人の中にある「千里馬」を見いだせるよう「自らの伯乐たれ」と結ばれました。

当日は学校見学会も実施し、四〇〇人近い見学者で賑わいました。中庭では、東大から譲り受けた「メンデルのブドウの樹」を植樹した後、合唱・吹奏楽の中庭コンサートを行い、セミナーハウスでは競技かるた

やデイベートの体験・紹介を行いました。また校舎内では各班の作品・研究成果の展示、来校者をもてなすお茶席、新グラウンドではラグビー班の招待試合を行うなど、単なる施設紹介でなく生徒の日頃の活動を見ていただく機会としました。図書館では蔵書と共に、開学二〇〇周年を迎える遵義堂の図を展示しました。

新校舎が竣工し校舎は変わりましたが、これまで脈々と伝えられてきた伝統が、これからの膳所高生にも引き継がれていくことを実感する一日となりました。

平成生まれの生徒たちが、新校舎で高校生活を送っています。旧校舎を知る最後の学年となった三年生、新校舎最初の入学生となった二年生に、それぞれの思いを聞きました。

教室を見渡せば、汚れや落書きの残る壁、文字がなかなか消えない黒板、ギンギン音の鳴る床。校舎内は土足だったので、雨の日は掃除が大変でした。冬はすきま風が入ってきて廊下は外と変わらない程寒かった。新校舎の工事が遅れなければ経験できなかった旧校舎での思い出。たった一年しか過ごしていない校舎でしたが、私達の希望に溢れた真新しい高校生活の思い出が残っています。旧校舎、長い間お疲れ様でした。

(二年 茶谷 祥平)

10月、晴天の中、無事竣工式を迎えました。新校舎は吹き抜けや窓が多く、明るい開放的な環境の中、のびのびと学習に取り組めます。また、校舎内にも至る所に緑が見られ、季節を知らせてくれます。先輩方が旧校舎でなされてきたように、また真つ白な校舎に新しい歴史を刻んで行きます。

(二年 吉田 真理)

多くの同窓生が新校舎を見に来られます。自分たちの頃にはここに何があった...と語られるそれぞれの母校への思いは、校舎が変わっても変わらないものです。新校舎で生きるこれからの膳所高生にも、そんな思いが持てる高校生活を送って欲しいと思います。

竣工式 同日開催の 学校見学会

の1コマ



▲各班の作品展示



▲東大から寄贈された「メンデルのブドウの樹」を記念植樹



▲家庭科室でのお茶席



▶合唱・吹奏楽班の中庭コンサート



校門を入ってすぐの右手に新しく植樹された「江戸彼岸桜」。三代目の遵義の桜としてその伝統を継承して行っていただきたい。

新校舎に移転して

「変わらない教え」

私たちが一年から二年に上るとき、膳所高校の新校舎は完成しました。新しく綺麗な校舎で過ごしたそれからの学校生活が、より快適なものになったことは言うまでもありません。しかし私はそれ以上に、新校舎への移転という経験をして、大きなものを得られたと思っています。それはどんなに周りの環境が変わっても、変わらずにそこにあるものの存在に気づけた、ということです。

校舎が新しくなっても、校長先生が替わっても、体育館に掲げられた『遵義・力行』の校訓が変わることはありません。当たり前だけれどとても大切なそのことに、私は校舎の建て替えという経験を通して、改めて気づくことが出来ました。

私たちは今、この膳所高校を卒業し、それぞれの進路を歩んでいきます。どんな道へ進んでも、どんなに周囲の環境が変わっても、いつまでも変わらず『遵義・力行』の教えを胸に、頑張っていきたいと思いません。

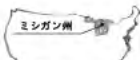
(三年一組 宮路 萌)

木造校舎から旧校舎へ

「苦い思い出」

入学数日後、柔道部に入学すべく意気揚々と道場に行き驚いた。校舎と同様今にも壊れそうな建物。先輩に稽古をつけてもらい投げ飛ばされて腰板にドスン、腰板が割れて恐ろしくなり早々に退散。旧校舎と工事中の新校舎の間の狭いグラウンドで辛うじて体育祭は開かれたが、殆どどの部活は皇子山や近江神宮のグラウンドを借りて練習した。二年生になると順次新校舎に移り、卒業は新校舎で迎えることができた。旧校舎で入学し、新校舎で卒業した最初の最後の学年である。新格技場が完成していれば、私は黒帯を締めていたであろう。

(膳所高8 昭和35年卒 藤崎 聡)



サイエンス・グローバル・プロジェクト(ミシガン州研修)

昨年度より、スーパー・サイエンス・ハイスクール事業の一環として、国際的な研究環境に対応できるようになることをめざして、2年生がアメリカ合衆国ミシガン州を訪問しています。

今年度は、14名が平成19年8月11日(土)から23日(木)までの13日間ミシガン州立大学等において研修をおこないました。研修の主な内容は次のとおりです。

1、科学研修

ミシガン州立大学などの研究機関において、環境科学や生物学などの分野を中心とした実習や講義を受講し、その取り組みを学ぶとともに、海外の研究環境を体験し、科学的視野を広めました。

2、科学英語研修

ミシガン州立大学英語センターにおいて、訪問先の研究機関の事前・事後学習を行い、学習した内容を英語でプレゼンテーションすることなどにより、研修内容についての理解を深めました。

3、ホームステイ

現地の家庭に滞在し、家族との交流を深めながら、米国の生活習慣や考え方を学ぶとともに、日本について客観的な視点を持ち、情報発信できるコミュニケーション能力を高めました。

今年度の研修で特筆すべきは、2回にわたる英語でのプレゼンテーションです。

1回目は、ミシガンの皆さんに琵琶湖や滋賀県について知ってもらうために、出発前に県内の研究施設等で学習したことを英語で発表しました。ネイティブの人たちの前で生まれて初めておこなう英語のプレゼンテーションに、生徒たちは自分の英語が本当に通じるのか心配し、非常に緊張しましたが、終わった後にホストファミリーの皆さんにお褒めをいただいたり、内容に関しての質問をもらったりして、その成果を肌で感じる事ができました。

また2回目は、10日間のミシガン滞在で学んだ内容についてまとめたものを、ホストファミリーやお世話になった研究機関の皆さん

に発表しました。研修を続けながら、それを短時間に英語でまとめるという、想像を絶するたいへんな作業の連続でしたが、10日間の英語漬けの成果が現れたのか、1回目のプレゼンテーションの時は全く違い、余裕の表情でのプレゼンテーションでした。



ミシガン州政府環境品質局の前にて



ミシガン湖上実習

出発前は、生徒たちも引率教員も、通訳なしで研修ができるのか、また、英語でのプレゼンテーションがうまくできるのか、不安はありましたが、「案ずるより産むが易し」の言葉以上に、生徒たちの無限の可能性を感じることで驚き、20年度も引き続き、質の高い研修ができることを心から期待しています。



第2回プレゼンテーション



ケロク水の森での実習

ボートを通して全国へ、世界へ

ボート班 参与 後藤龍一

ボート班では現在35名ほどが活動していますが、毎年インターハイや国体をはじめとする全国大会に向けて練習し、出場を果たしています。そして、来年度(平成21年度)には、滋賀県でインターハイが開催されます。地元開催の全国大会なので、ぜひ良い結果を残したいと班員一丸となって今から全力で取り組んでいます。みなさまもどうぞ応援よろしく願いいたします。

さて、今年もボートシーズンはじめの大会である朝日レガッタが5月3〜6日に開催されます。この試合はその後の春季総体、インターハイへとつなげる大会でもあります。昨年は女子ダブルスカルで決勝まで勝ち進み、その後も春季総体優勝、インターハイ準優勝の結果を残すことができました。今年も良い結果が残せるように頑張ってください。

この朝日レガッタに、2年に一度、オーストラリアの女子高校 MLC (Methodist Ladies College) が参加しています。この学校は6年前に初めて朝日レガッタに参加し、それ以来隔年で来日・参戦しており、今年で4回目になります。彼女たちが来日した際には、

膳所高校・ボート班の家庭にホームステイし、日頃学んだ英語力を活かして交流をしています。また、彼女たちは膳所高校へも見学に訪れ、日本らしい班活動(柔道、剣道、空手道、書道、茶華道など)を見学・体験しています。MLCの生徒達にとっても、膳所高校の生徒達にとっても、この朝日レガッタ遠征を通じて、かけがえのない国際コミュニケーションを体験する良い機会となっています。

今後ともこの交流が続くことを期待しつつ、この交流を通じて、世界の舞台で活躍できる国際感覚豊かな人間になるとともに、ボートを通して班活動の良い思い出を作り、人間性を磨いてくれることを望みます。

同窓会事業のご案内

◆プリンスホテルクッキングセミナー

- ・とき 平成20年10月15日(水)
- ・ところ 大津プリンスホテル
- ・参加費 四、〇〇〇円
- ・内容 日本料理
- ・定員 申込み順 先着20名様限り
- ・参加受付させていただいた方には詳細を追って連絡いたします。

◆お申し込み方法

同窓会事務局まで
TEL077・524・4295または
FAX077・524・1732で
お申し込みください

◆第13回(平成20年度)ゴルフコンペ

- ・とき 平成20年9月15日(敬老の日)
- ・ところ メイプルヒルズゴルフクラブ
甲賀市信楽町田代六五
TEL0748・82・3800

スタート時間 8時00分 アウト・イン同時スタート

申込後各自あて集合時間及び組合せ表を追って通知します。

競技方法 ダブルペリア方式による18ホール ストロークプレー

当日会費 一八、〇〇〇円(予定)

但しメンバー・シニアは別料金

表彰式 懇親会・表彰は競技終了後同会場で行います。賞品は多数用意しています。

募集人数 30組 120名

定員に達し次第切りとします。

「同窓会役員」名簿

平成19年〜20年度

副会長	浅田 幸作 (膳6)
副会長	上野 滋子 (東2)
副会長	飯田 順 (膳3)
副会長	鈴木 勝 (膳8)
副会長	大西 元博 (膳10)
副会長	西村 育子 (膳6)
副会長	今市 信夫 (東1)
副会長	小西 英太郎 (膳5)
副会長	高城 宗求 (東4)
副会長	大村 文子 (東1)
副会長	松村 文夫 (膳9)
副会長	山田 勲 (膳11)
副会長	遠藤 仁兵衛 (膳7)
副会長	横田 陽子 (膳1)
副会長	佐田 葉子 (膳15)
副会長	東郷 重明 (膳16)
副会長	井上 正雄 (膳15)
副会長	山崎 仁嗣 (膳29)
副会長	山下 隆 (膳35)
副会長	宇野 勝 (膳41)
副会長	飯田 勝 (膳1)
副会長	岡角 憲次 (膳1)

会員名簿発刊のお知らせ

平成20年版の会員名簿を5月17日に発刊します。

この名簿は会員のみで完全予約販売ですのでぜひ予約をお願いします。

価格 4,000円(送料税込)

ご予約は欄サルトで承ります。受付時間(平日)9時30分~16時
フリーダイヤル: 0120-917-964

次号Vol.26は特集

「心に響いた恩師のことば」を予定しています。

待ってます!

多感な高校時代、あの先生のこんな言葉を覚えていた。そしてそのことが今の私を形作っているのでは?そんな思い出を四百字以内にとめて、広報部会までお寄せください。事務局宛のメールでも受け付けていただきます。

「投稿心よりお待ちしております。」

周年記念同窓会

20周年記念同窓会

(膳所高35回・昭和62年卒業)

比叡風が吹く新春のよき日、89名の同窓生が琵琶湖ホテルで一同に会しました。年始のお忙しい中にも係わらず恩師の先生方にもご列席を頂きましたことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。ほとんどの参加者が卒業以来20年振りに顔を合わせる事になり、開演前からすでに会場はヒートアップ状態となりました。諸般の事情で前日の夜に司会をお願いした後藤一重君の開会宣言で開演となり、続いて野球部の有志の協力を得て校歌斉唱を行いました。意外にも皆さん「しっかり歌えていた」ことに驚きました。次に、恩師の先生方のご紹介と山本正史先生からご挨拶を頂戴しました。温かくかつ貴重なお話の数々が当時の記憶を蘇らせ参加者は20年前にタイムスリップしたような感覚に陥りました。続いて世話役代表の私から会の簡単な趣旨説明をさせて頂き、羽野正孝先生の音頭で乾杯と相成り、宴会へと進ませて頂きました。宴会中は恩師の先生への近況報告をする人や昔のよき時代の回想をする人、不参加者の所在確認をしている人、名刺交換をしてビジネス談をする人など様々なシーンが繰り広げられていました。中でも恩師の先生によるマイクリレーでは、最近の教育事情や新築校舎などのお話を興味深く聞かせて頂きました。



締めとなり、楽しいひと時も幕を閉じました。会終了後も膳所高校の新校舎を見学に行ったグループや朝まで杯を交わしたグループなど様々だったと聞いております。次回も今回より多くの同窓生と恩師の先生をお招きし開催出来ればと考えております。最後になりましたが、当日有志としてお手伝いを頂きました各位と残念ながら当日所用で欠席された中嶋忠司君のご尽力に御礼申し上げます、報告とさせていただきます。ありがとうございました。(世古 誠)

25周年記念同窓会

(膳所高30回・昭和57年卒業)

2007年8月12日(日)、琵琶湖ホテルにて卒業25周年記念、第3回混濁会が盛大に行われました。恩師7名を含む100余名が集い、お互いの近況等を話し合っただけでなく、25年前にタイムスリップしました。1次会のあとはほとんどの方が2次会へ、すべての出席者がマイクを持って25年ぶりの自己紹介。その後約半数の方がカラオケへ行き大いに盛り上がりました。アンケートを実施し、次回期日について問うたところ、5年後に参加したいという声が多くありましたので、2012年度(平成24年度)に開催される事が濃厚です。(萩山 丁)



35周年記念同窓会

(膳所高21回・昭和48年卒業)

真夏の酷暑の中、2007年8月11日、卒業35周年記念同窓会を大津プリンスホテルにて開催しました。約1年半前から実行委員会を立ち上げ、2ヶ月に一度

実行委員会を行いながら開催にこぎつけました。約140名の方に出席していただき、委員一同本当に喜んでいました。同窓会の前には、新築された膳所高校の校舎見学会も実施しました。旧校舎の面影や、我々が過ごした教室での思い出を胸に、新校舎を見学された方も多かったのではないのでしょうか。膳所高校のホームページに旧校舎の写真がありますので、一度ご覧になって下さい。



実行委員会の中で、「我々も50を過ぎたのだから、少しは世の中に恩返しをできないだろうか」という意見が出ました。それはいいことだと全員が賛成し、この同窓会を記念して高校生の時の思い出の写真を集めてCDを作りました。その購入代金に会費の一部を加え、25万円を中越沖地震救済金として寄付させていただきました。これは、9月4日の京都新聞「善意の小報」の欄に掲載されました。この場をお借りして皆様へ報告させていただきます。同時に、ご協力に対して深く感謝いたします。この思い出のいっぱいあった記念のCDは、悲しいときには若い頃のみんなの笑顔が励ましとなり、楽しいときにはその気分を増幅させてくれることでしょうか。同窓会が終わったあと「楽しかったね」というメールがあちこちで飛び交っていたことや、いろんなクラス、出身中学の同窓会があったことを聞きました。計画した我々にとってこれほど嬉しいことはありません。次の40周年でも元気で出会えることを祈りつつ、報告を終わらせていただきます。(奥村 弘史)

40周年記念同窓会

(膳所高16回・昭和43年卒業)

2008年1月2日、お正月の最中、卒業40周年の同窓会を大津プリンスホテルにて、恩師の先生方、同期生の100名弱の参加を得て開催する事ができました。今回の40周年の同窓会に於いては、前回の有志の35周年はともかく、記念すべき30周年が1年遅れでの開催となった事もあり、「とにかくキチンと40周年の間に合わせてくれ」との声に押されて、前年秋より世話人の皆さんには何度も準備会合を持ち大変なご協力を頂き、どうにか開催にこぎつけました。準備段階では当日のプログラムを色々考えてはどうか、という意見も出ましたが、今回は還暦を目前に控え、人生の区切りとして皆の歓談を中心に計画をしました。いざ懇親会が始まると先生方の近況のお話の

間はまじめに聞いていましたが、その後は各自の歓談で盛り上がり、二次会にも多くの方の参加を頂きました。「次回が10年後では間が空きすぎる」との声もあり、次回は45周年の開催とし、又の再会を約してお開きとなりました。又、同期生の協力でホームページを立ち上げ、当日の記念写真やスナップを掲載し、皆のメールの意見や近況と共にアクセスして頂く様、後日あらためて参加できなかった人も含め全員にハガキで案内しました。(畑中 勉)

45周年記念同窓会

(膳所高10回・昭和37年卒業)

11月18日(日)第10回卒業45周年記念同窓会がロイヤルオークホテル宴会場ローズオーキッドにおいて開催された。役員は午前11時集合で、小林辰也君の緻密な計画のもと役員全員のスムーズな準備も整い、あとは出席者をお待ちのみである。恩師4名(岡田節夫、久保良彰、前川哲郎、西池季節各先生)をお迎えし、同窓生丁度百名の集いであった。13時開始の少し前に同窓生は着席し、13時きっかりに先生方を同窓生の暖かい拍手でお迎えした。小林辰也君と嶋田忠代さんとの名コンビによる司会の下、校歌斉唱に続き、はや物故者となられた恩師また同窓生のご冥福を祈り黙祷を捧げ会は始まった。幹事代表の歓迎の挨拶のあと、西池先生の乾杯のご発声で開宴となった。今回は集合写真を取り止め、各クラス毎に壇上へ上がり、それぞれの写真を記念としたが、まず、4名の先生方のクラスより壇上へ上がり、先生方に花束を贈呈し、先生方には一言ずつ近況等のお言葉を頂いた。あちこちでの談笑は絶えず、16時の閉会時間があっという間に過ぎ、二次会は同じホテルのスターズへ席を移し、約8割の同窓生の出席で、がらっと大人の雰囲気の中で、一次会では話足りなかつた事など時間の経つのも忘れ、18時に予定通り終了となった。(白井 勝彦)



50周年記念同窓会

(膳所高5回・昭和32年卒業)

私たち膳五会は平成19年6月17日(日)琵琶湖ホテルにて松山義雄先生、前川哲郎先生、石井義雄先生、小笠原保信先生、岡田節夫先生、谷元峰夫先生の6名の恩師のご臨席を賜り同期生125名の参加で盛会に行なわれた。

今回の50周年記念同窓会は平成18年8月9日(水)に関西膳伍会の母校新築校舎見学会の場で実行委員会を設けて企画運営する事にした。平成19年2月に23名が集まり骨子を決めた。集まって食事をし談話するだけでは脳がないので、何か記念になるものを残そうと言ふことになり、文集を編集することになった。7名が自主的に協力して、出筆者選びと原稿を手分けして依頼した。紙面の編集は石田康子が、写真は高野隆男をまとも役をお願いした。

わずか100日余りの日数しかなく、編集して校正まで漕ぎ着けた時にはほっとした。書題は絆「ぎずな」とし安田剛雄の筆による。

同窓会当日は、記念写真撮影をした後、中村幸弘の司会進行で校歌斉唱「渾身の湖」帰らぬ人となられた恩師、同期生諸氏のご冥福を祈って、全員が黙祷を捧げた。実行委員長殿の挨拶が事業報告を兼ねて開会の挨拶を行い、恩師に記念誌が贈呈された。恩師から夫々ご挨拶があり、八木雅次の乾杯の発声で食事談話になった。すぐに50年前の高校生にもどり、席を替えて話の輪があちこちに出来て盛り上がり約2時間半の時があつたという間に過ぎた。関東膳五会の岡部弘が中締め挨拶をし、全員が大きな輪を作り、恒例の「琵琶湖周航」の大合唱で一次会はお開きになった。当日のスナップ写真は高野氏がCDに編集して参加者全員に贈った。

55周年記念同窓会

(大津高3回・昭和27年卒業)

秋晴れに恵まれた平成19年11月15日(日)琵琶湖ホテル瑠璃の間において昭和27年卒業生(通称「ふなの会」)150名が集い「55周年記念同窓会」を開催しました。田中善一郎君の司会でパーティーが始められ、まず最初に物故者に黙祷を捧げた後、中村敬司ふなの会会



長が、次のような挨拶をしました。

「二年振りのふなの会の総会、また今年はずき総会です。月日が経つのは早いもので、早や半世紀以上が過ぎたのであります。しかしこうして顔を合わせる一瞬のうちにタイムスリップして昔に戻り、気軽に談話できるようにになります。これが同級会の素晴らしさであると思います。思えば、昭和27年といえば、まだ戦争の爪痕が残っておりましたが、われわれは、はつらつとして再会を誓い合い母校を巣立ちました。

当時を振り返りますと、対日講話条約、日米安保条約が発効されました。また、ラジオドラマ「君の名は」が放送され、ヘルシンキオリンピックが開催されるなどわが国にとってもひとつの節目の年であったと思えます。

卒業後は、それぞれの道を歩んで、貴重な経験をされたことと思います。今日は、過ぎし日の思い出話などを語り合っ、旧交を暖めていただきたいと思います。」

「最近、同窓会が一段と楽しくなってきました。いろいろな人達に出会えるからです。せつせと旅行を繰り返す人。絵を描く人。ボランティア活動に情熱を燃やす人。体調不良を訴えながらも結構それを味わっている人。そんな、いろいろな人達に出会えるからです。そして、あつ、俺達は今、林住期」と思っています。



60周年記念同窓会

(膳所中45回・昭和22年卒業)

平成19年4月21日、琵琶湖ホテル琵琶湖の間で、卒業60周年記念同窓会を開催した。

このクラスは、大戦勃発後間もない昭和17年4月入学の、制帽は戦闘帽、鞆は背嚢、ゲートルを巻いて集団登校した異色の学年である。1・2年生の頃は、農繁期に上級生と共に農家へ動労奉仕に出かけることはあったが、まだ学校での授業は続けられていた。しかし、3年生になった昭和19年4月からは学徒動員令により、石山にあった軍需工場の住友通信工業(現在のNECの建物)の音響課、計器課、真空管課に配属され、工員さん達と一緒に水中聴音器等の兵器生産に携わる工場生活に変わった。そしてこれが昭和20年8月の終戦まで続いた。この間に予科練や軍の学校へ転籍する者もその数を増して行った。

終戦になって一年半ぶりに4年生として母校に復帰したときは、戦時練り上げ卒業により5年生は不在で、われわれが最上級生であった。部活や諸制度等も徐々に復旧したが、前年度の繰り上げ卒業制度は昭和21年3月にも希望者には適用され、クラスの中の約20名はこれに則って4年で卒業して、膳中44回卒となった。この年に4年修了で上級学校に進学した者もいたが、大多数は5年生に進み、昭和22年3月に膳中45回生として卒業した。この卒業式で卒業証書を授与されたのは、われわれ5年間在校中の杉本一郎校長からではなく、式の直前に旧制浪速高等学校校長から膳中校長に着任された林浩校長からであった。クラスの中には留年して第46回卒業生となった者、学制改革の影響を受けて中学卒業後新制の膳所高校に在籍し、昭和24年3月これを卒業した者、また途中他校から転入した者など様々であるが、同じ時期に机を並べたことのある者はすべて膳中45回の同窓生として親睦を図り、卒業後10年を経た頃から毎年同窓会を開催してきた。

クласの時代的背景に紙面を割いたが、今回の卒業60周年記念同窓会には43名が出席した。集合写真撮影の後、物故者72名(これは同窓生の約3割にあたる)の追悼法要を極原義雄君を導師として営んだ。次に母校の新校舎竣工を祝ってささやかながら剰余金の一部膳高同窓会に寄付させて頂くことを総意により決定した。懇親会は例年に増して盛り上がり、時間の経つのが異常に惜しく感じられた。最後に初田昭三君のリードによって全員で膳中校歌を高唱し、次回の再会を誓い合って解散した。



膳中三九会

(膳所中39回・昭和16年卒業)

平成19年11月7日晴天に恵まれ琵琶湖ホテルにて卒業66年目の例会を開催しました。

先づ記念写真撮影後開会の辞に始まり物故者のご冥福を祈ると共に旧交を温め、今日に至るを互いに喜び合いました。

膳所高校の庭先に香りを放つ木が無いので三九会記念樹を長谷川君から提案があり、金木犀直径20センチメートル樹高2メートルを校門の近くに11月20日に移植が完了しました。作業費、運搬費は三九会費から支出しました。

記念樹用札に書くことばを出席者にお願した結果12編の応募があり審議の結果「遵義の薫り、いつまでも」が決定しました。用札の経費については学校側が負担されます。

次期平成20年度代表世話人大坪君を選出し京都での再会を期すると共に、膳所高校のご発展と校友会各位の御健勝をお祈り申し上げます。



膳中三七会

(膳所中37回・昭和14年卒業)

夜来の雨が降り続き湖上の景色も定かでない生憎の天気であったが、一年振りに集いたるは12名、お互いの元気を祝福したが、今日出席予定の石川善策君が直前に急逝、又長年この会の幹事として世帯をしてもらった中川文義君の逝去や武林鉄心君の訃報に一同只々その冥福を祈る。我々の年齢は計り知れずお互いの健康と長寿を祈る許りである。宴酣にして溜池君から恩師高山幸生先生が、我が三七会の為に寄せられた七言絶句の詩が披露される。先生の我々に寄せられた思いが



切々と述べられその高恩に一同感謝々々であった。その一節は後に述べることにし、来年のことを云うと鬼が笑うと云うが、笑われてもかまわない。全員が来年もこの会を行うことを熱望、日程も五月二十三日とし「米寿の会」として集まることを決定し、最後は校歌「春駒湯の琵琶の湖」「草生の城」を熱唱し再会を約して解散時は十五時であった。

高山幸生先生が三七会に寄せられた詩

(一) 石鹿城趾春浅く
風雲の世に巢立ちたる
わが百三十三健児 略

(二) 今級友の團欒に
思いは返る四十年
意気なお高く膳中の
やがてぞ狂う大戦に
身は一片の塵のごと

(三) 中
相見る今日の身を祝ぎて
嵐の渦と揉まれたり
生きなん強く將に長く

波しぶき 友を偲ぶや 初夏の雨
(清水 仙太郎)

卓球同友会 20周年記念式典

去る8月18日(土)、琵琶湖ホテルにおきまして、膳所高校卓球同友会創立20周年記念式典を実施しました。この日は、60人の会員が集い、昔話に花を咲かせ、世代間を越えて親睦を深めました。また、住友生命の藤井寛子選手をゲストに迎え、エキシビジョンとして、同友会会員と卓球の試合を行いました。楽しい時間があったという間に過ぎていきました。同友会は膳所高校卓球部のOBおよび関係者で構成し、年一回、膳所高校卓球部の現役生との親睦試合を実施し、現役生のたくましい姿に目を細め、心地よい汗を流しています。今後も、できるだけ多くの会員の皆様に参加していただけるよう、楽しい事業を計画していきたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。
(姜 永根)

吹奏楽班 50周年記念同窓会

2002年に再興を果たした吹奏楽班OB会は「OB相互の親睦と現役への援助」を旗印に活動を重ね、2007年1月21日には総勢57名のOB出演により第2回OB合同演奏会を開催しました。そして、この演奏会に出席した昭和39年卒の先輩を通じて、創班時に在籍されていたOBから昭和32年に班の活動を開始した事を確認することができました。よって、本年2007年が創班50周年となりますことから、これを記念する同窓会を開催する運びとなりました。

当日は創班時に在籍されていた昭和34年卒の大先輩から平成19年卒の新人会OBまで50周年に相応しい幅広い世代が集い、遠方より参加のOBを含め50名ほどの参加を得ました。

一次会では母校のセミナーハウス「遵校館」の研修室に集合し、昭和35年卒の先輩による創班当時の興味深いお話しをお聞きし、改めて50周年の重みを感じました。また、OB会事務局から記念行事としての「文集・班史の編纂」及び「第3回記念演奏会の開催」を提案し、出席のOBから賛同を得ました。

その後、班顧問の先生と指導の先生に了解頂いた、現役班員への訪問と新校舎見学を行うことができ、感慨深いひと時となりました。特に、吹奏楽コンクール・関西大会出場を決め、練習中の現役班員の様子を拝見できたことは、出席者一同にとって思い出に残るイベントになったと思います。

一次会を無事終了した後、京阪電車・粟津駅前の晴嵐会館へ移動し、立食パーティでの二次会を開きました。二次会では、この会を裏方として支えてくれたOB会事務局の若いスタッフ主導による「名前ピンゴ」というゲーム形式の自己紹介スピーチなどを交え、楽しく有意義な一日があったという間に終わりました。最後に、「第3回記念演奏会」を2009年2月開催予定としてOB会事務局にて準備を始めたことを報告し、この一文の結びとします。
(OB会事務局 昭和51年卒 横田 稔)



周年記念同窓会 予告

20周年記念同窓会

(膳所高36回・昭和63年卒業)

日時 平成21年1月3日(土)

会場 琵琶湖ホテル

(詳細は夏以降に郵送でご案内する予定です。5月に発行される同窓会名簿に現住所が載っていない方は連絡願います。)

連絡先 村木 康弘・田中 彰
TEL 077・531・0666
E-mail: info@muraki-ac.jp

30周年記念同窓会

(膳所高26回・昭和53年卒業)

日時 平成20年8月9日(土)17時

会場 大津プリンスホテル

(詳細は6月頃ご案内いたします。)

連絡先 秋山(旧居嶋) 洋子
TEL・FAXとも 077・526・3648

45周年記念同窓会

(膳所高11回・昭和38年卒業)

日時 平成20年9月7日(日)

会場 ロイヤルホテルオーク

(詳細は追ってご案内いたします。)

50周年記念同窓会

(膳所高6回・昭和33年卒業)

日時 平成20年10月26日(日)

会場 旅亭 紅葉(大津市茶ヶ崎)

連絡先 世話係代表 浅田 幸作
TEL 077・537・4651

詳細については8月下旬にご案内いたします。

55周年記念同窓会

(大津東高1回・昭和28年卒業)

日時 平成20年11月8日(土)

会場 大津プリンスホテル

連絡先 代表幹事 川口 浩
TEL 077・553・1234

※詳細については別途ご案内いたします。

60周年記念同窓会

(膳所中46回・昭和23年卒業
旧膳所高・昭和24年卒業)

日時 平成20年11月20日(木)11時30分受付

会場 ホテル・ポストンプラザ草津(草津駅前西口)

連絡先 中村 啓一
TEL 077・562・0137

草津市渋川一―九一七

古稀記念同窓会

(大津東高4回・昭和31年卒業)

日時 平成20年10月12日(日)午前10時30分受付

会場 琵琶湖ホテル 瑠璃の間

会費 一〇,〇〇〇円

(詳細は8月中旬にご案内いたします。)

連絡先 東四会会長 樺 鐵夫
TEL 077・534・5512

会費納入ありがとうございました

同窓会会費納入状況

会員の皆様から納入していただきました
平成19年度同窓会会費は、

平成20年3月31日現在、

総額 **8,331,000円**
となっています。

前払いしていただいている方については、当年度分を振替充当して、上記金額に集計させていただきます。

会員の皆様のご理解に感謝しますと共にますますのご協力をお願いいたします。

今回平成20年度会費納入の振替用紙を同封いたしておりますのでご入金のほど、よろしくお願い申し上げます。

(財務部会)

滋賀県立膳所高等学校同窓会

年会費納入のお願い

平成20年度会費を同封の振替用紙にてご納入いただきますようお願いいたします。

会費は年額2,000円となっておりますが、5年(10,000円)まとめてご納入いただければ幸いです。

〔納入機関〕 郵便局 01010-3-30378
(振替用紙は共通です。) 銀行 滋賀銀行 本店 普 913381
びわこ銀行 本店 普 335940

いずれも名義は、滋賀県立膳所高等学校同窓会 会長 浅田 幸作 です。

※新卒の同窓生は、卒業後4年間は卒業時に納入する入会金3,000円のみで、卒業後5年目から会費納入をお願いしています。
※ご住所等に変更がある場合は振替用紙にその旨をご記入ください。

(財務部会)



ご理解とご協力を
よろしく願います。

平成19年度同窓会会計報告・平成20年度同窓会総会提出議案

◆平成19年度 同窓会会計報告 (H19.4.1~H20.3.31)

一般会計 《収入の部》

項目	金額	H19年度予算	備考
前年度繰越金	3,451,656	3,451,656	
平成19年度会費	4,136,000	3,200,000	会費会計より振替
前受会費	4,195,000	4,173,000	会費会計より振替
同窓会入会金	1,314,000	1,305,000	
雑収入	367,579	100,000	寄付、受取利息、 デジタル代等
合計	13,464,235	12,229,656	

《支出の部》

項目	金額	H19年度予算	備考
総会費	685,991	700,000	
会議費	224,717	150,000	理事会、役員会等
交際費	2,250	50,000	
通信費	754,181	700,000	総会出席用紙等、 会費納入用紙等
旅費交通費	57,200	200,000	
支払手数料	222,498	200,000	
雑給与	1,179,000	1,400,000	
コンピューター関係費	41,200	100,000	メンテナンス他
事務用品費	92,023	100,000	コピー用紙他
備品・消耗品費	151,643	100,000	コピーチャージ料他
広報発行費	937,750	1,160,000	24号発行
広報発送費	2,131,101	2,300,000	広報封入封緘、郵送料他
ホームページ運用費	150,000	180,000	ホームページ作成費
周年同窓会祝い金	380,000	500,000	9学年、お祝い
学校助成金	1,100,000	1,100,000	京大特別講座助成他
慶弔費	66,300	100,000	
班活動奨励金	1,000,000	1,000,000	全国大会参加助成他
各部会費		700,000	
広報部会費	13,900		
組織部会費	9,402		
事業部会費	356,560		ゴルフ大会案内、 賞品代他
財務部会費	141,604		会費納入依頼再発送代
総務部会費	183,880		
予備費		1,489,656	
予備費	159,600		プリンター
合計	10,040,800	12,229,656	

差引現在残高 3,423,435 (=13,464,235-10,040,800)
(次年度へ繰り越し)

特別会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前年度繰越金	6,259,436	
利息	9,719	
合計	6,269,155	

《支出の部》

項目	金額	備考
体育館前幕・袖幕他	360,000	学校施設補助
生徒サウンズ、椅子、書架	959,700	〃
庭園植栽工事	2,257,500	〃
テニス休憩屋根工事	270,000	〃
合計	3,847,200	

差引現在残高 2,421,955 (=6,269,155-3,847,200)
(次年度へ繰り越し)

◆同窓会財産目録

I 一般会計及び会費会計 合計

◇郵便局	定期貯金	1口	6,000,000円	◇滋賀銀行	本店	普通預金	1,452,908円	◇びわこ銀行	本店	普通預金	1,134,100円
	郵便振替	1口	1,912,490円		膳所支店	普通預金	3,779,302円				
	郵便貯金	1口	887,815円					◇事務室現金			—円
計 15,166,615円											

II 特別会計

◇滋賀銀行 膳所支店 普通預金 2,421,955円

計 2,421,955円

III 名簿会計

◇滋賀銀行 膳所支店 定期預金 2,500,000円
膳所支店 定期預金 3,500,000円
膳所支店 普通預金 42,024円

計 6,042,024円

◆平成20年度 予算(案)

一般会計 《収入の部》

項目	H20年度予算案	H19年度予算	備考
前年度繰越金	3,423,435	3,451,656	
当年度会費	3,200,000	3,200,000	会費会計より振替 1600口
前受会費	4,331,500	4,173,000	会費会計より振替
同窓会入会金	1,300,000	1,305,000	435口
雑収入	100,000	100,000	受取利息、多岐 シール代、寄付
合計	12,354,935	12,229,656	

《支出の部》

項目	H20年度予算案	H19年度予算	備考
総会費	700,000	700,000	
会議費	150,000	150,000	理事会、役員会
交際費	50,000	50,000	
通信費	700,000	700,000	総会出席用紙等、 会費納入用紙等
旅費交通費	200,000	200,000	役員会、関東同窓 会出席、他
支払手数料	250,000	200,000	会費納入 登録手数料
雑給与	1,400,000	1,400,000	
コンピューター関係費	100,000	100,000	メンテナンス他
事務用品費	100,000	100,000	
備品・消耗品費	180,000	100,000	コピーチャージ料他
広報発行費	1,200,000	1,160,000	1回発行 28,000部
広報発送費	2,420,000	2,300,000	1回分、会費納入 用紙封入他
ホームページ運用費	180,000	180,000	更新他
周年同窓会祝い金	500,000	500,000	
学校助成金	1,100,000	1,100,000	京大特別講座助成他
慶弔費	100,000	100,000	
班活動奨励金	1,000,000	1,000,000	全国大会参加補助他
各部会費	700,000	700,000	広報取材活動費、 会費納入依頼書他
予備費	1,324,935	1,489,656	
合計	12,354,935	12,229,656	

会費会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前受会費繰越金	10,470,680	
平成19年度会費	4,086,000	
平成19年度端数会費	50,000	
平成19年度前受会費	5,467,500	
合計	20,074,180	

《支出の部》

項目	金額	備考
平成19年度会費	4,086,000	一般会計へ振替
平成19年度端数会費	50,000	一般会計へ振替
前受会費平成19年度分	4,195,000	一般会計へ振替
合計	8,331,000	

差引現在残高 11,743,180 (=20,074,180-8,331,000)
(次年度へ繰り越し)

一般会計現在残高 会費会計現在残高
3,423,435 + 11,743,180 = 15,166,615

名簿会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前年度繰越金	6,018,057	
名簿売上金	12,900	
利息	11,067	
合計	6,042,024	

《支出の部》 なし

差引現在残高 6,042,024 (次年度へ繰り越し)

平成20年度 事業計画案 (概要)

会員相互の親睦と教養の向上を図るとともに、母校に対する支援・協力の諸事業を行う。

本年度は、母校創立110周年の事業に参画し、母校の要請により特別事業に協力する。

- 総務部会 年次総会・理事会の開催、役員会等は必要に応じて開催する。母校との連絡協議を積極的に推進するとともに、各部会への協力、支援を行う。
- 財務部会 年会費の徴収に努めるとともに、特別事業に必要な資金の収納に協力する。
- 事業部会 総会時の講演会や懇親会の開催、各学年同窓会への協力、ゴルフ大会等交流

会の開催を通じて同窓会活動の活性化に努める。

また、学校後援会活動、文化班、体育班への奨励に努める。

- 広報部会 母校の情報発信、同窓生の交流を図るため、年1回ではあるが、同窓会報「JUNGIDO」を発行する。充実した紙面作りに努める。
- 組織部会 地域、職域の組織づくり、各クラブOB会の充実に努める。
会員名簿(平成20年版)を5月に発行する。

ホームページアドレス
<http://www.dosokai.ne.jp/zezekoukou>
メールアドレス
zeze-h-dousoukai@poem.ocn.ne.jp

卒業生文庫「石鹿文庫」へご寄贈を。
同窓生の著書を集めた「石鹿文庫」も皆様の寄贈で充実してまいりましたが、更なる充実をめざしてご協力をお願いします。
なお、ご寄贈いただく際には同窓会事務局までお知らせください。

著者名	書名・巻次(版次)
池口 博信 著	湖にふく風…出納長からの手紙より
岡田 明彦 著	カヌーでめぐる湖Ⅲ
宇野 勝 著	曠に向かって…あすなるの詩
川嶋 四郎 著	民事訴訟過程の創造的展開
川嶋 四郎 著	民事救済過程の展望的指針
川嶋 四郎 著	差止救済過程の近未来展望
ジョージ・タケイ 著	星に向かつて…ジョージ・タケイ自叙伝
相坂 一考 著	執念
倉原 知子 著	カウンスリング ガイドブック
桑原 知子 著	教室で生かすカウンスリング・マインド
桑原 知子 著	もつ一人の私
西之 雅美 著	日英対訳 地方行政を愛する
前田 樹男 著	プロシエクトマネジメント・ツールキット
二見 美子 著	四季の花…前田樹男水彩作品集
船橋 新太郎 著	心の宇宙① 前頭葉の謎を解く
中島 峰夫 著	高校生のための社会科学読本4 饗庭野
山本 御稔 著	MBA娘 殺人事件
竹安 邦夫 著	生きる論理・生きる倫理
NHKサイエンス 編	サイエンスのつぼみ 名物研究室
小野 武元 著	情と意の脳科学
小松 直行 著	脳とワーキングメモリ
久保 貞雄 著	記憶と脳
久保 貞雄 著	21世紀の心理学に向かって
京官連絡会 編	久保家の三代…近・現代一〇〇余年
山下 克巳 著	近江の常夜燈
桑原 知子 編	ラーメンでわかる投資の理論
山本 御稔 著	臨床心理学
八幡 和郎 著	「篤姫」と島津・徳川の五百年
八幡 和郎 著	お世継ぎ
八幡 和郎 著	戦国大名異国盗り物語
八幡 和郎 著	アメリカもアジアも欧州に敵わない
八幡 和郎 著	47都道府県地名うんちく大全
八幡 和郎 著	歴代知事二〇〇人
八幡 和郎 監修	戦国武将の通知表

膳所高卒業生寄贈図書
「石鹿文庫」

第56回卒業式



平成20年3月3日、本校体育館に於いて、第56回膳所高等学校卒業証書授与式が行われ、普通科397名、理数科40名、計437名が自信と誇りを持って新たな旅立ちをした。

本年度は、旧校舎を知る最後の学年、また、入試制度が全県一区になる前の最後の学年、さらには一昨年末に起きた未履修問題を乗り越えての全員卒業ということ、生徒達はもろもろのこと、関係者一同、感慨もひとしおの式となった。

宇野同窓会名誉会長、浅田同会長、今市同常任理事長、小西同総務部会長、元校長大崎先生、父母教師の会会長、同副会長、旧職員河川、太田両先生を来賓に迎え、在校生(2年生全員、1年生各クラス代表2名)、教職員出席のもと盛大に開催された。

3年生は各クラス担任から呼名され、卒業証書が各クラス代表に授与された。河原恵校長は、式辞の中で「受験を前に補習というハンデを背負ったが、力を合わせてやり遂げることができた。今までの研鑽と努力を称え、遵義の心を忘れず、真に自立した心で知性と感性を磨き、グローバルな視点を持ち続けることを願う旨をはなむけの言葉とされた。

卒業生代表として野口雅貴君と福井彩乃さんが「卒業生の言葉」の中で、「いろいろなことがあったが、この3年間学んだことを忘れず、これからも努力をしていきたい。後輩達、先生方、保護者の皆様のおかげで、この日を迎えられたことが何よりの喜びです。」と述べた。その後、卒業生全員が、「果立ちの歌」を合唱し、



吹奏楽班による「蕾」の演奏の中、出席者の拍手を浴びながら会場を後にした。また、これに先立って、2月29日に、同窓会入会式と卒業記念品目録贈呈式が行われた。同窓会入会式では、同窓会から浅田、小西両氏からお祝いの言葉をいただき、代表の3年6組福井恒誠君が入会の御礼を述べた。

班活動報告

平成19年度班活動結果

▼報道部▲

○放送班

NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会出場
アナウンス部門
創作ラジオドラマ部門
創作テレビドラマ部門
全国高等学校総合文化祭
朗読部門 出場 越後絵里加

▼体育部▲

○空手道班

全国高校総体 女子団体組手 出場
女子個人形 出場 田中 絵梨
女子個人組手 出場 田中 絵梨

○体操班

全国高校総体 女子新体操 団体出場

○ポト班

全国高校総体出場

○ヨット班

国民体育大会
SS級男子出場
SS級女子出場
女子ダブルスカル(上田・村山) 準優勝

▼文化部▲

○音楽班(合唱部)

全国高校総合文化祭 出場

○書道班

全国高校総合文化祭 出場

○かるた班

第4回安芸全国書展高校生大会 出場
入選 関 苑子・高橋 敦奈・古川 直

○文化祭

第38回近江神宮全国献書大会 2位 関 苑子

○吹奏楽班

第16回国際高校生選抜書展 秀作賞 尾崎由布子

○武庫川女子大学

近畿地区優秀校 団体賞 尾崎由布子

○特選

小出 紗弓

○かるた班

全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会 予選リーグ2位

○個人戦

A級4位 指宿 立
C級4位 田中祥太郎

○全国高校総合文化祭

出場 予選リーグ2位

○団体戦

予選リーグ2位

○生物班

第50回日本学生科学賞 中央出品

サクラサク!

主要大学合格者

(国立大学)	京大	46名	浜松医科大	1名	同志社大	108名	
大阪大	38名	奈良教育大	1名	関西大	43名	神戸薬科大	2名
神戸大	37名	和歌山大	1名	龍谷大	37名	摂南大	2名
京都工芸繊維大	29名	鹿児島大	1名	同志社女子大	31名	共立女子大	1名
滋賀大	24名	琉球大	1名	京都薬科大	25名	大東文化大	1名
滋賀医科大	9名	(公立大学)		関西学院大	22名	東京家政大	1名
広島大	6名	大阪市立大	12名	京都女子大	21名	日本大	1名
京都教育大	6名	京都府立大	8名	京都産業大	16名	麻布大	1名
北海道大	5名	大阪府立大	8名	京都外大	16名	名城大	1名
名古屋大	4名	滋賀県立大	6名	京都橋大	14名	京都学園大	1名
筑波大	3名	兵庫県立大	3名	早稲田大	13名	花園大	1名
金沢大	3名	神戸市外大	2名	明治大	14名	ノートルダム	1名
名古屋大	3名	岐阜県立大	2名	大阪薬科大	10名	花園大	1名
横国大	2名	京都府立医科大	2名	京都外大	6名	大阪工大	1名
富山大	2名	福島県立医科大	1名	立教大	3名	関西医科大	1名
三重大	2名	茨城県立医科大	1名	立命館アリア大	3名	神戸学院大	1名
鳥取大	2名	首都大東京	1名	略農学園大	3名	甲南大	1名
徳島大	2名	横濱市立大	1名	立教大	3名	宝塚造形芸術大	1名
香川大	2名	福井県立大	1名	立教大	3名	奈良大	1名
九州大	2名	岐阜県立看護大	1名	立教大	3名	大阪産大	1名
旭川医科大	2名	九州歯科大	1名	立教大	3名	兵庫医科大	1名
岡山大	2名	(大学校)		立教大	3名	大産大	1名
奈良女子大	2名	防衛大学校	2名	立教大	3名	兵庫医科大	1名
北海道教育大	1名	防衛医科大学校	2名	立教大	3名	京都造形芸術大	3名
帯広畜産大	1名	防衛医科大学校	1名	立教大	3名	自治医大	2名
宇都宮大	1名	(私立大学)		立教大	3名	青山学院大	2名
一橋大	1名	立命館大	335名	立教大	2名	上智大	2名
信州大	1名			立教大	2名	中央大	2名
静岡大	1名			立教大	2名	東京理科大	2名
				立教大	2名	法政大	2名
				立教大	2名	関西外大	2名

編集後記

桜の花やセンバツ球児の活躍に「元気をもらおう」という言葉が、何やら身に染みる年齢になってきたようです。ところが、そんな私でも、この広報部会では若者扱いしていただける有難いところですよ。

平日の夕方6時頃から、それぞれの仕事を早々に切上げお腹もグーゲー。が、いつも差し入れていただくお菓子をつまみながら和気あいあいでこんな仲間にあなとも是非加わっていただけませんか? 若い方も、そうでない方も...

心からお待ちしています。

(Y・F)

上野 滋子 (東2)・佐田 葉子 (旧大)・山田 勲 (膳11) 服部 章 (膳12)・東郷 重明 (膳15)・藤原 陽子 (膳16) 岡澤 則子 (膳26)・堀井 美香 (膳33)・井上 正雄 (膳16)